

令和3年度 函南町立丹那小学校 グランドデザイン

| | |
|--|---|
| 国：生きる力の育成 県：有徳の人の育成 町：豊かな感性と「生きる力」をもつ子供の育成 | 校訓： 何くそ やりぬくぞ 学校教育目標：挑戦 はじける笑顔 丹那の子 重点目標： ○試行錯誤を繰り返して課題を解決し、自分の成長に笑顔になる子 ○丹那のすばらしさを実感し、丹那に誇りと愛着をもつ子 学校経営目標 ○丹那を学び、丹那のよさを知り、丹那とともにある学校 |
|--|---|

評価の最重点項目

- ◎学校で生活して、4月より自分ができることが増えた。
(児童A評価：90%以上)
- ◎学校は、信頼できる。
(保護者A評価：60%以上)
- ◎学校は、子供の安全・安心のために適切に対応している。
(保護者A評価：60%以上)

健全な心身の成長を目指して

- ◎学習規律・生活規律を整える
 - ・基礎・基本ガイダンスの実施
- ◎「函南スタンダード」の推進
 - ・「丹那っ子の心得」の徹底
- ◎自他のよさを認め合う、温かい人間関係づくり
 - ・学年団SSTの実施(年4回)
 - ・幼小中交流の推進
 - ・教育相談の推進(年3回)

〈いじめゼロ・不登校ゼロの継続〉

教育課程編成

- ◎四つのミッションの達成を軸にした教育計画
- ◎新学習指導要領に対応した教育計画
- ◎子供にも教師にも一定のゆとりのある教育計画(教育効果を高めつつ、教員の働き方改革をも意識した教育計画)

〈教育課程の工夫〉(教員A：60%以上)

安全・安心な学校づくり

- ◎学校の第一優先事項は「子供の安全・安心」(教職員の合言葉)
- 教育活動全般における万全な安全対策
- 安全点検の徹底、各種機関との連携
- 安全教育・防災教育の推進
- 「ヒヤリ・ハット」の共有と対策
- 人間尊重の精神のもと、認め合い、安心して生活できる教室・学校に
- OSSW(教育支援センター)との連携

〈重大事故ゼロ・不祥事ゼロ〉
 〈働き方改革・業務改善の推進〉

【PDCAサイクルの活用】

学びの充実を目指して

- ◎主体的・対話的で深い学びの推進
 - ・子供の「やる気」スイッチを押せる授業、自分の考えをもてる授業、自己決定や表現する場のある授業、相手意識をもち、他者と伝え合う場のある授業、自己の進歩を実感できる授業等
- ◎少人数のよさを生かしたきめ細かい授業の実施
- 基礎的・基本的事項の確実な定着
 - ・辞書引き、名文暗唱、全漢字読み、漢字書き取り、百ます計算、NIE等
- 本物と出会う(出会う)場の設定
 - ・畑の博士との野菜栽培、お米の博士との稲作、音楽のちからコンサート、陶芸等の地域人材活用
- 「丹那を知る」授業の推進
- 幼小中交流・異年齢交流の推進
- GIGAスクール構想の推進

〈学習に進んで取り組む〉(児童A：60%以上)

開かれた学校づくり

- ◎CSオール丹那会議(学校運営協議会)を軸とした地域に開かれた学校づくり
- ◎地域の人材、教材を生かした学校づくり
- ◎地域、保護者、職員同士が相互に情報を共有できる環境づくり
- ◎学校便り、学級便り等による情報発信

〈地域の方や魅力的な丹那の素材との交流を生かした学びの創造〉(保護者A：60%以上)

校内研修の推進

- ◎「主体的・対話的で深い学び」を目指す研修～自分の学びを調整する力の育成
- 本校の子供の実態を踏まえ、子供自身が自分の成長を実感できる授業づくりの推進
- プログラミング教育、外国語、特別の教科「道徳」等の取組

〈少人数のよさを生かした主体的な学びの視点に立った授業改善〉(教員A：60%以上)

教育活動を支える四つのミッション(オール丹那で地域総がかりの教育を推進するために)

①丹那を知る・縦割りの交流「丹那盆地ウオーケラリー」

②地域・幼小連携の「オール丹那運動会」

③丹那を食す「オール丹那自給自足DAY」

④感謝の心と表現力の向上を示す「ありがとうの会」

児童の実態

- ◎穏やかで真面目に努力することができる。
- ◎素直で落ち着いた生活態度である。
- 主体的に取り組むこと、試行錯誤を繰り返して粘り強く行うことに課題が感じられる。
- 丹那のことをあまり知らない。